

モデルデータが不正な場合の ベリファイアの使用方法

2010年4月

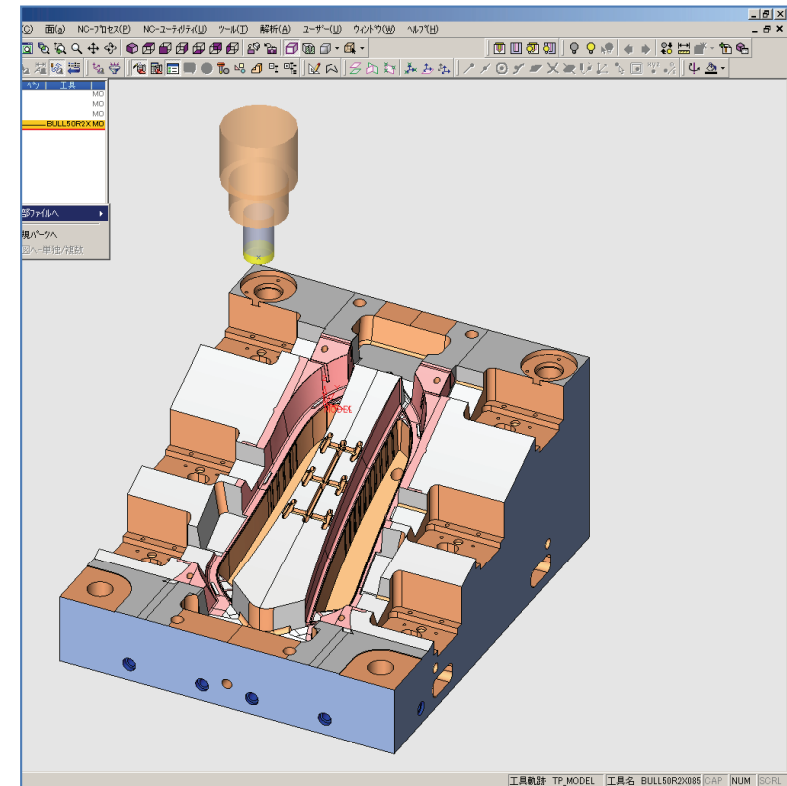
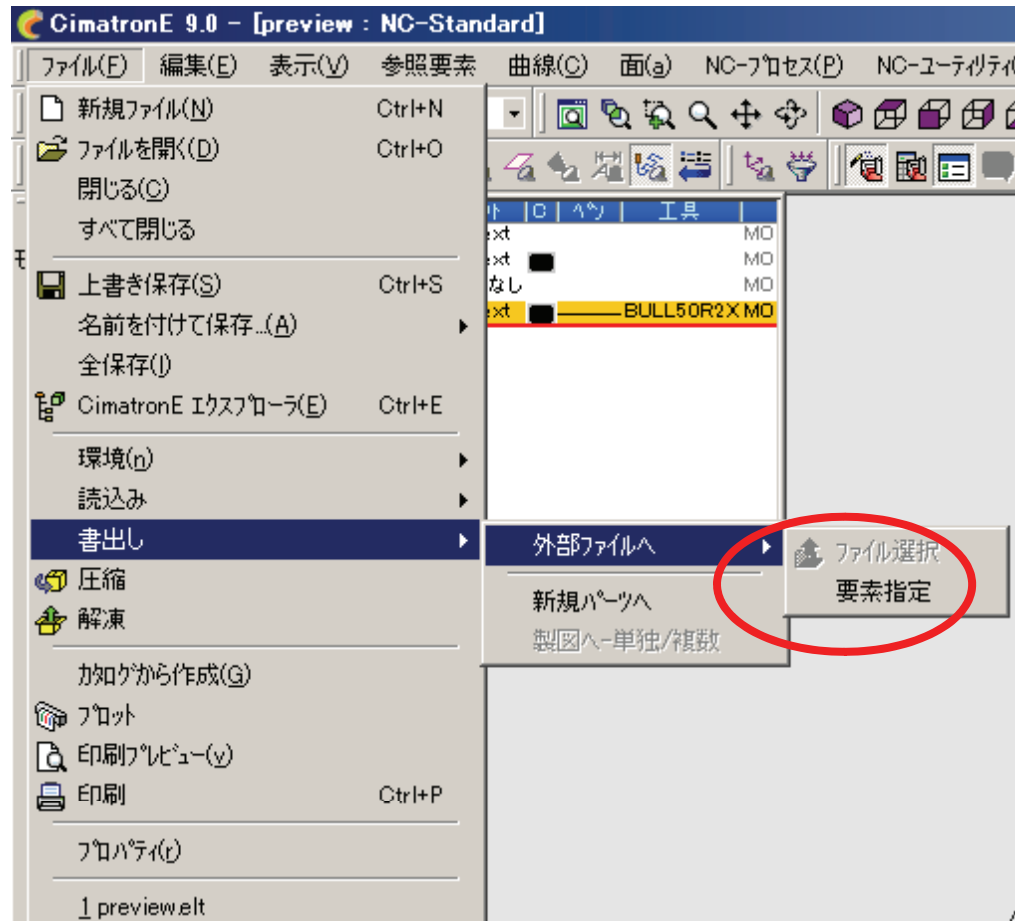
セイロジャパン
サポートセンター

モデルデータが不正な場合のベリファイアの使用法

- モデルデータが不正で、形状がうまくベリファイアに渡らず、食い込みなどの不具合を発見できない場合の対処方法です。
- 製品形状のモデルを確認して、形状が正常でない場合は、この手順に従ってベリファイアを実行して下さい。
- これはCimatronE9.0SP2の問題に対処したもので、E9.0での操作を説明しています。(他のバージョンでも同様の操作ですが、若干メニューなどが違う場合があります。)

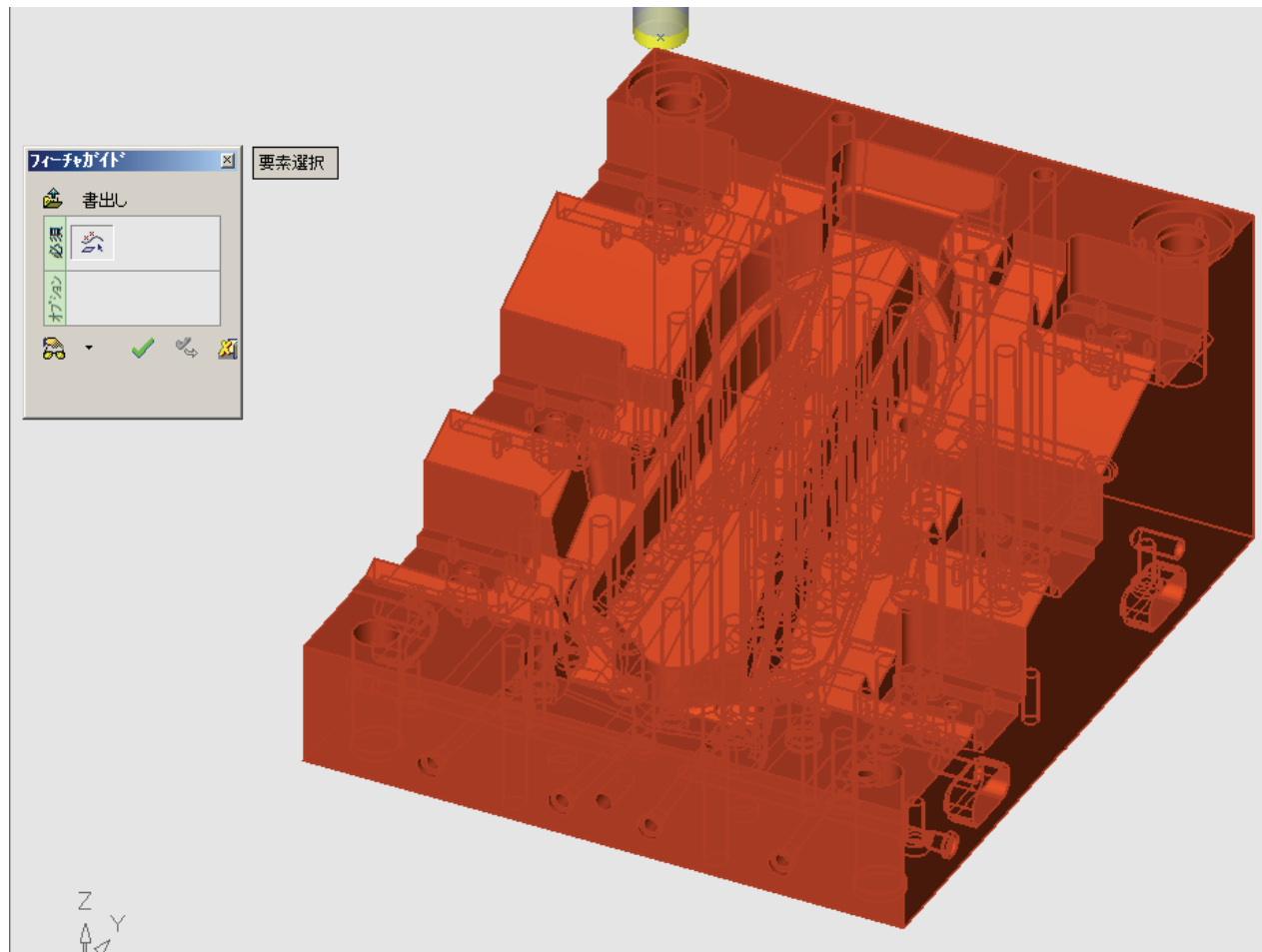
作業手順

1. モデルをSTLで書き出します



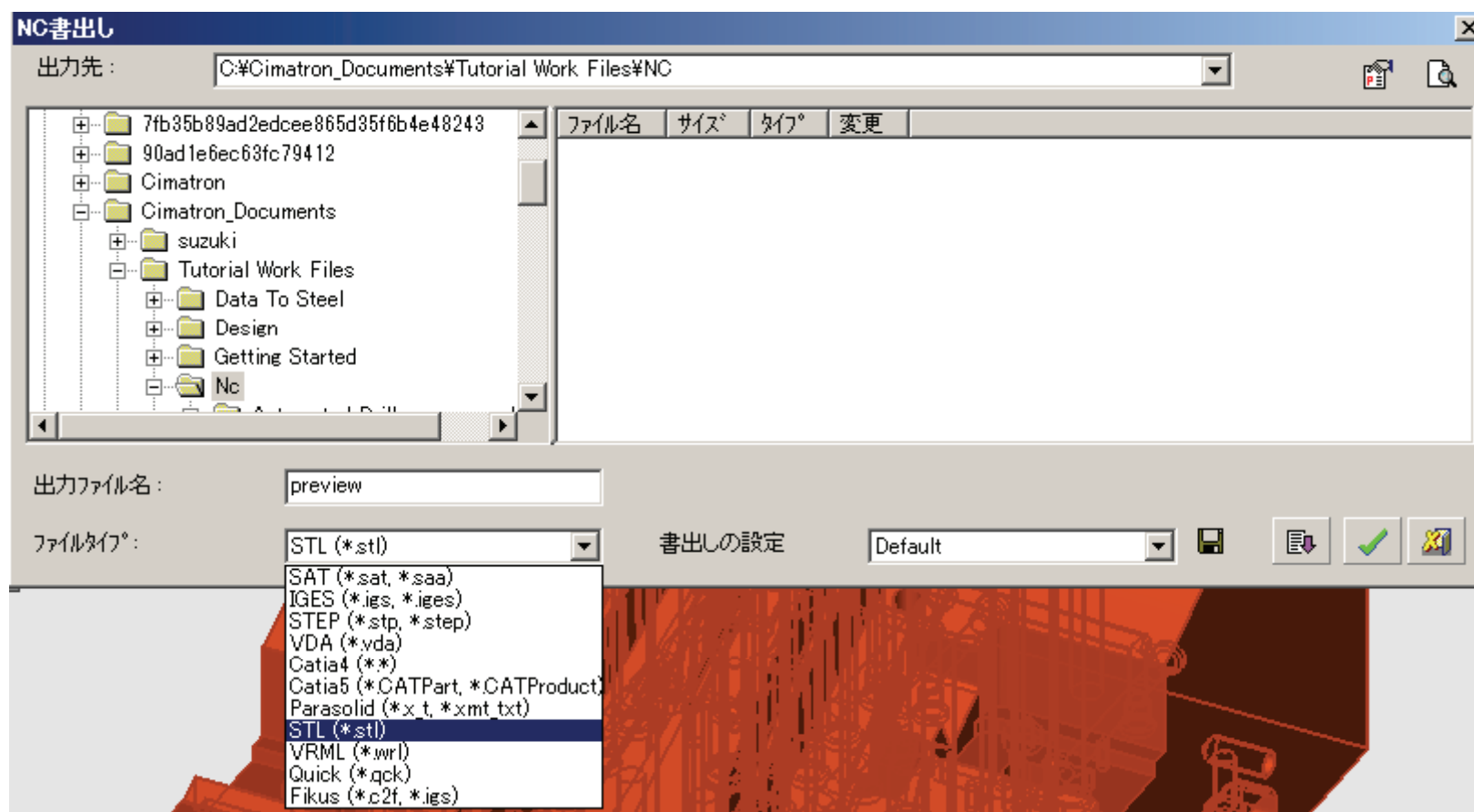
ファイル>> 書き出し>>外部ファイルへ>>要素選択 を選択

2. 製品モデルを選択します

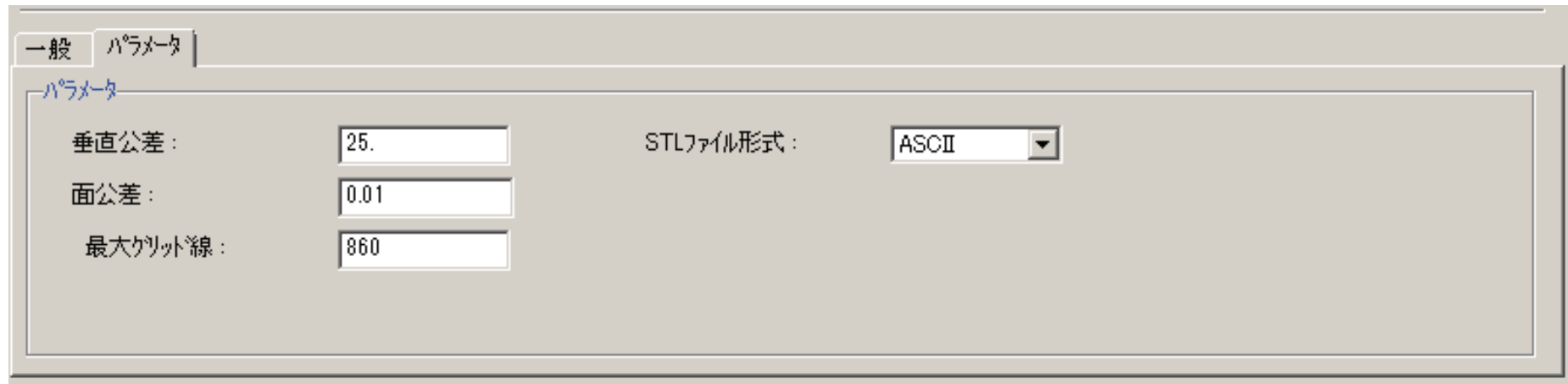


完成形状となるモデルを選択します。

3. 出力にSTLを選択します



4. STLの書き出しパラメータ



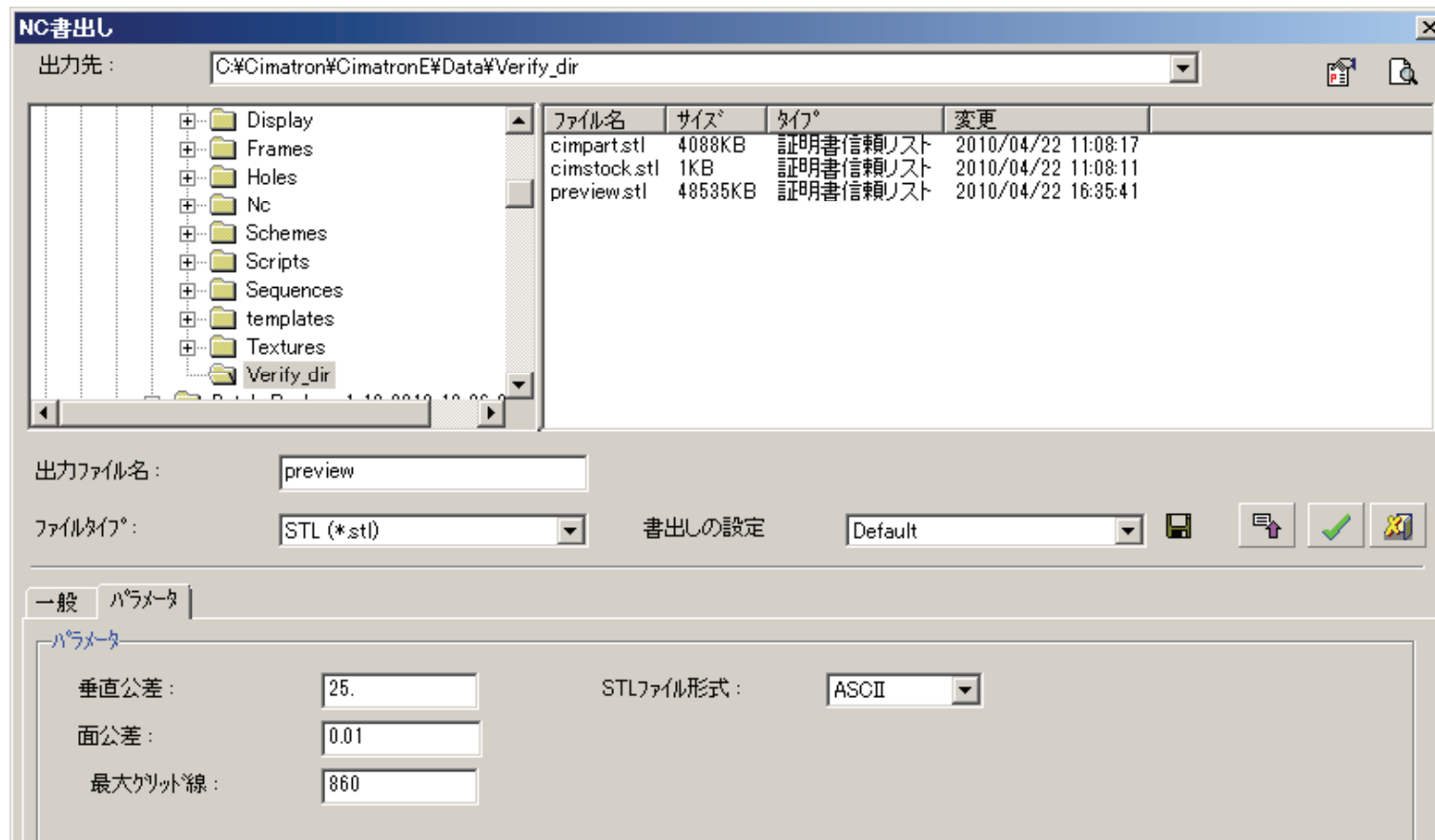
The image shows a software dialog box for STL export parameters. It has two tabs: '一般' (General) and 'パラメータ' (Parameters). The 'パラメータ' tab is selected. Inside the dialog, there are three input fields on the left and one dropdown menu on the right. The input fields are labeled '垂直公差' (Vertical Tolerance) with a value of '25.', '面公差' (Surface Tolerance) with a value of '0.01', and '最大グリット線' (Maximum Grid Lines) with a value of '860'. The dropdown menu is labeled 'STLファイル形式' (STL File Format) and is set to 'ASCII'.

パラメータ	値
垂直公差	25.
面公差	0.01
最大グリット線	860
STLファイル形式	ASCII

パラメータはデフォルトでOK

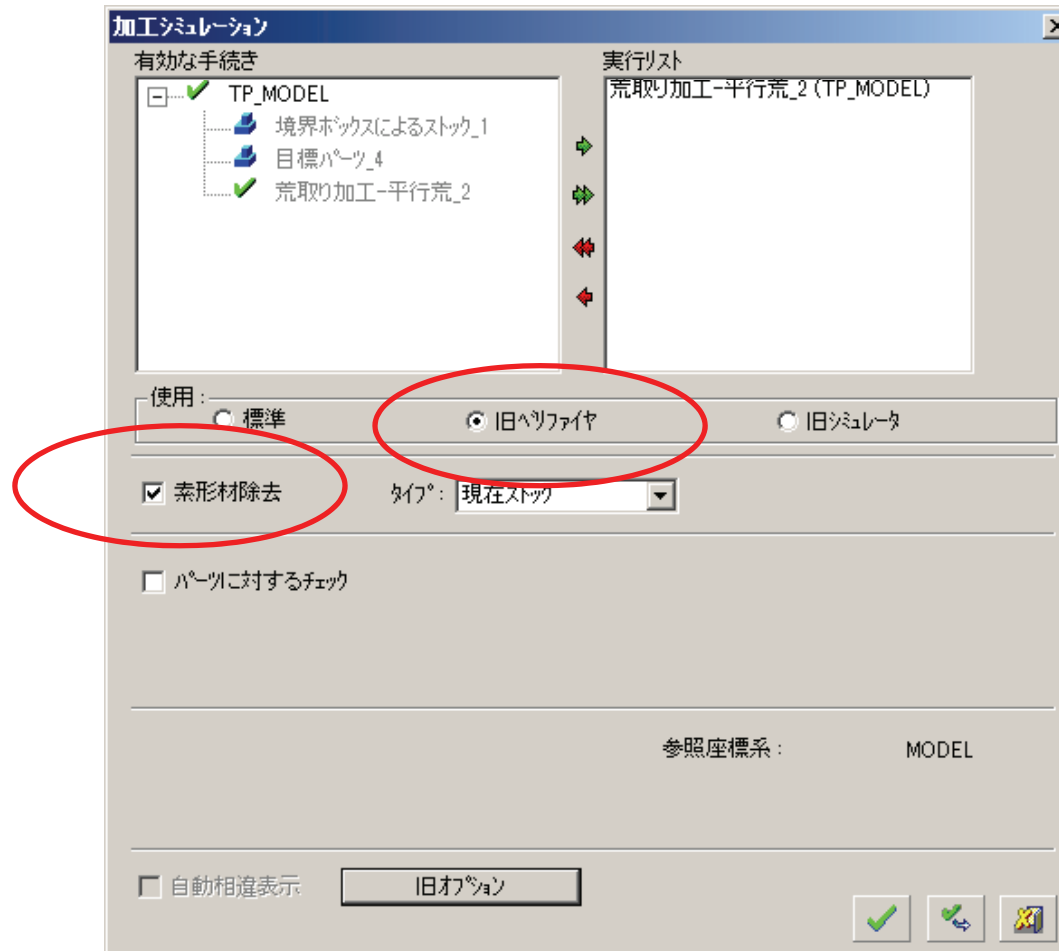
細かくしたい場合は、面公差を0.005などに
垂直公差を10程度にすると円筒などが細くなります。

5. STLの書き出し先



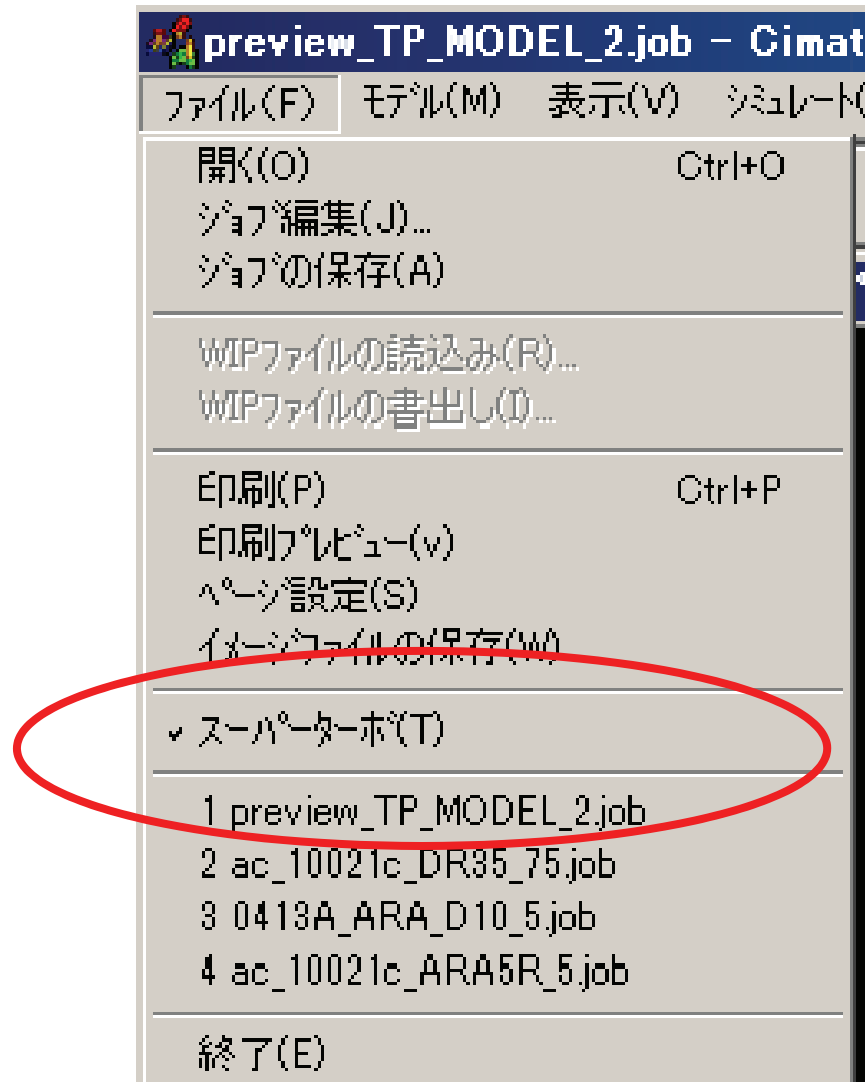
書き出し先は**任意**ですが、元々ベリファイが参照するディレクトリにしておくと便利です。
例: C:\Cimatron\CimatronE\Data\Verify_dir

6. シミュレーションの実行

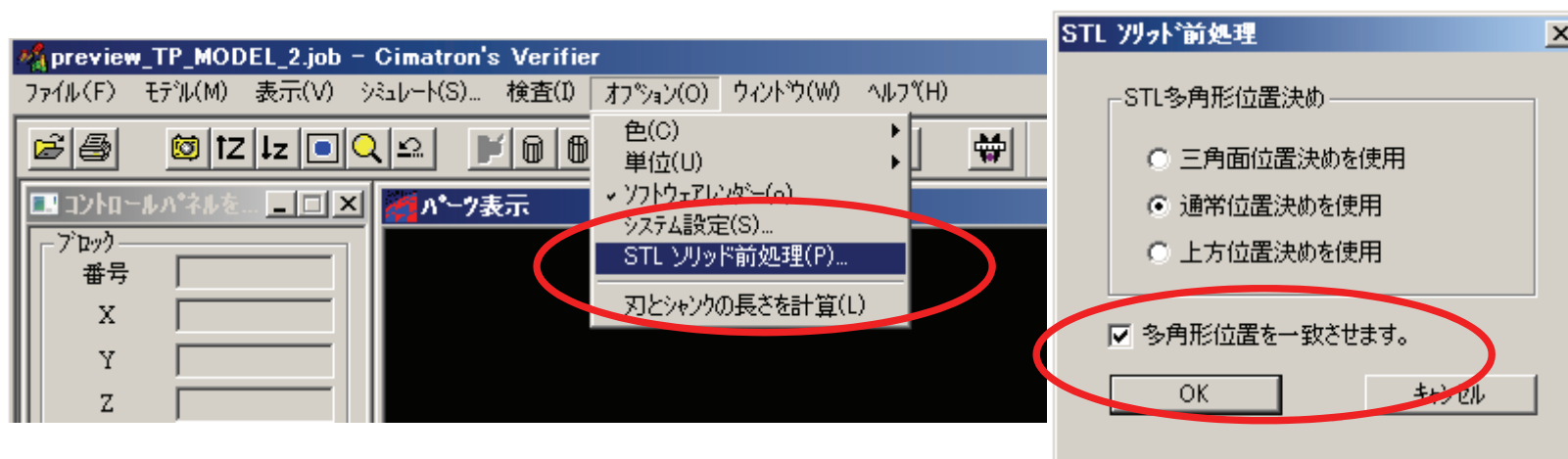


パーツに対するチェックはチェックしなくてもOK
(起動後、書き出したSTLを読み込みます)

7. スーパーターボに設定します



8. ベリファイアでの設定



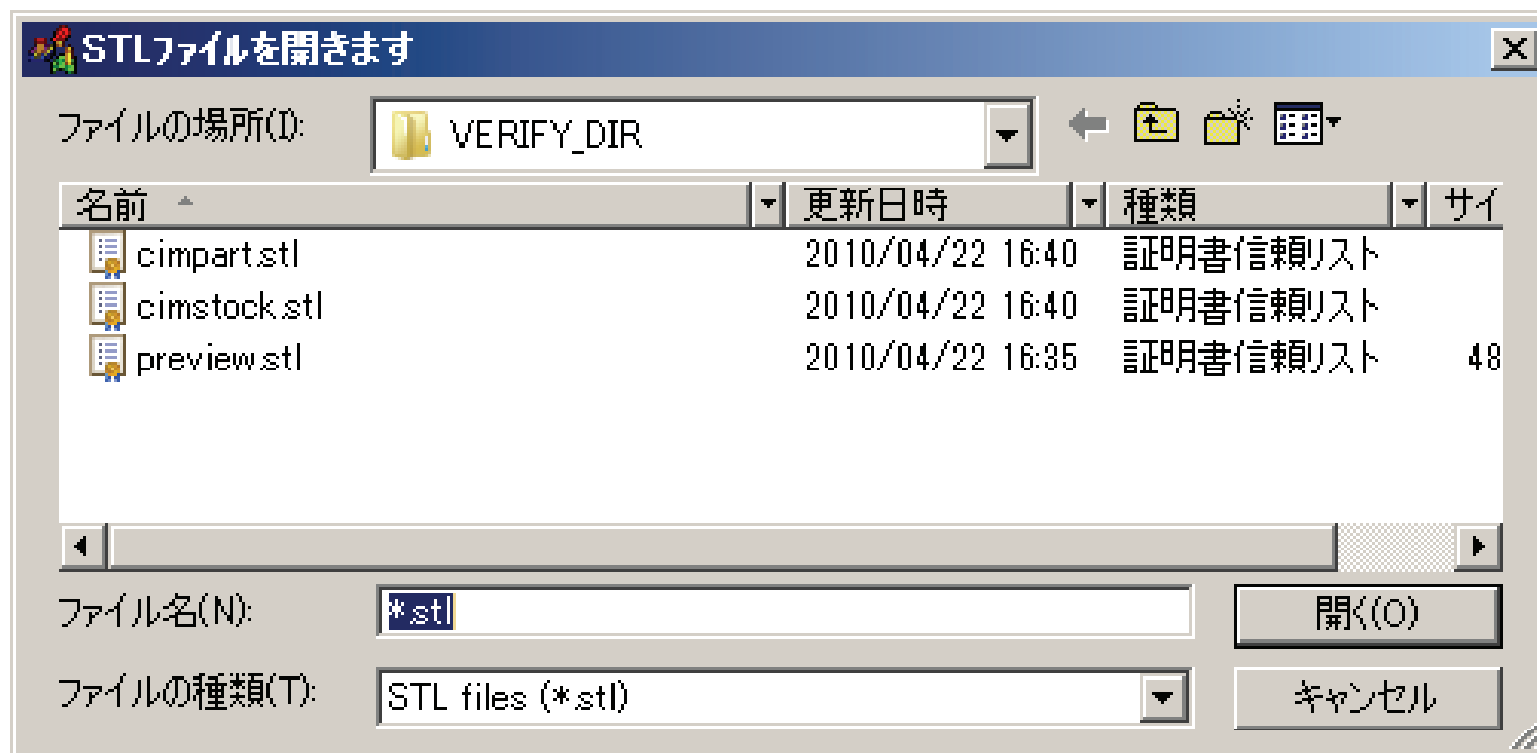
オプション>>STLソリッド前処理を選択します。
「多角形位置を一致させます」を有効化します。

9. STLデータの読み込み



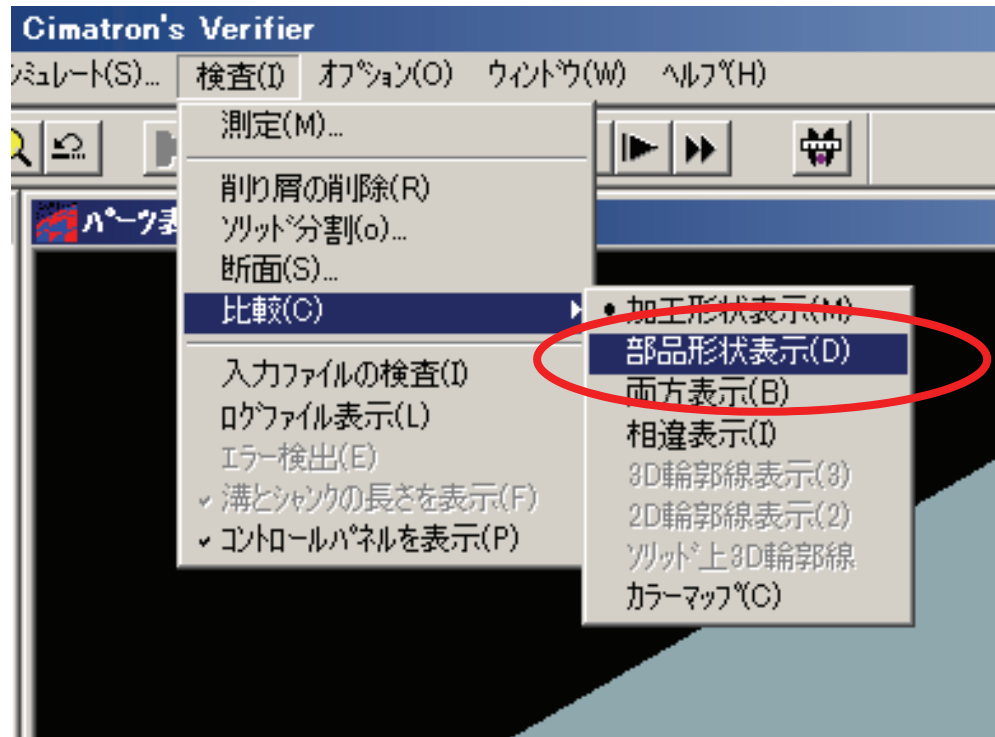
モデル>>製品データ>>STLを選択します。

10. 書き出したSTLファイルを選択



先ほど保存したSTLファイルを選択します。

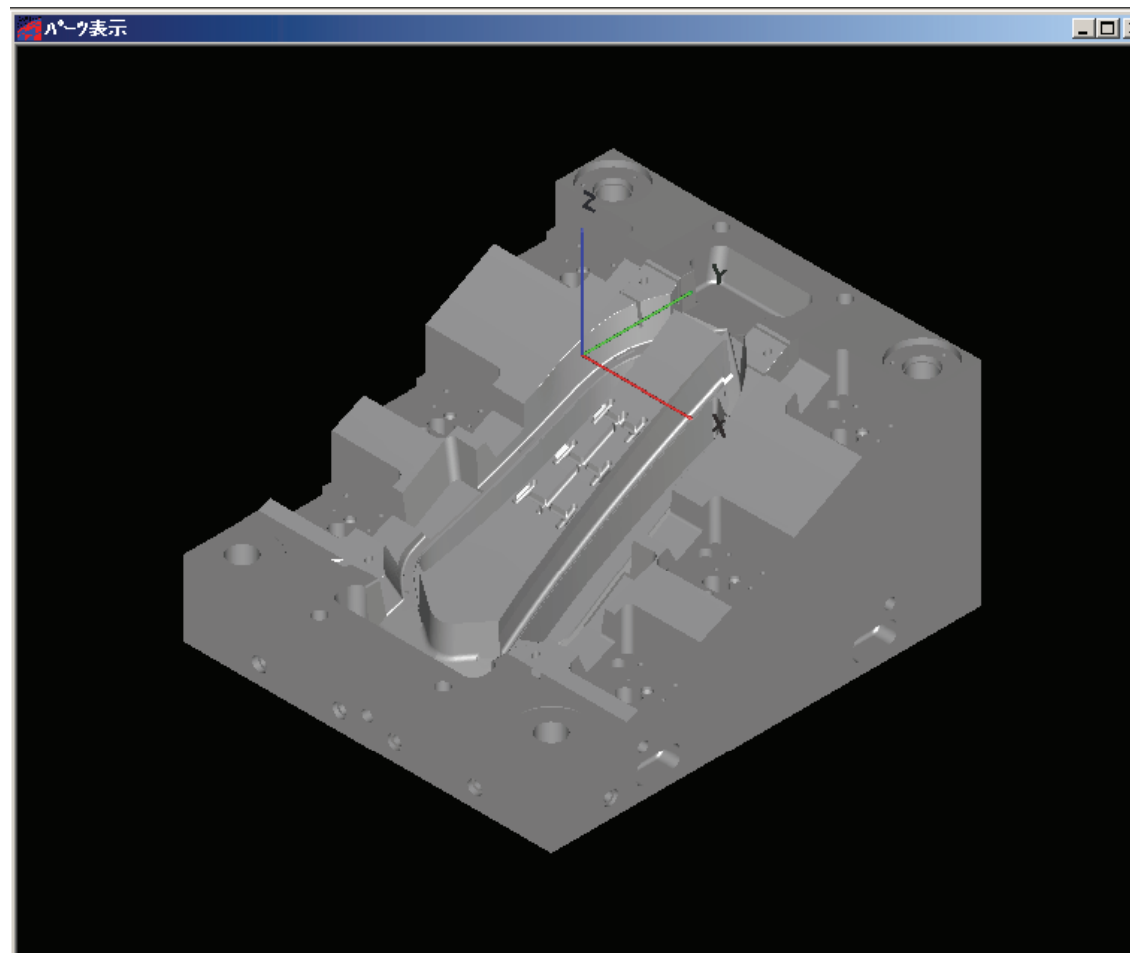
11. 製品形状の表示



形状が読み込まれたか確認します。

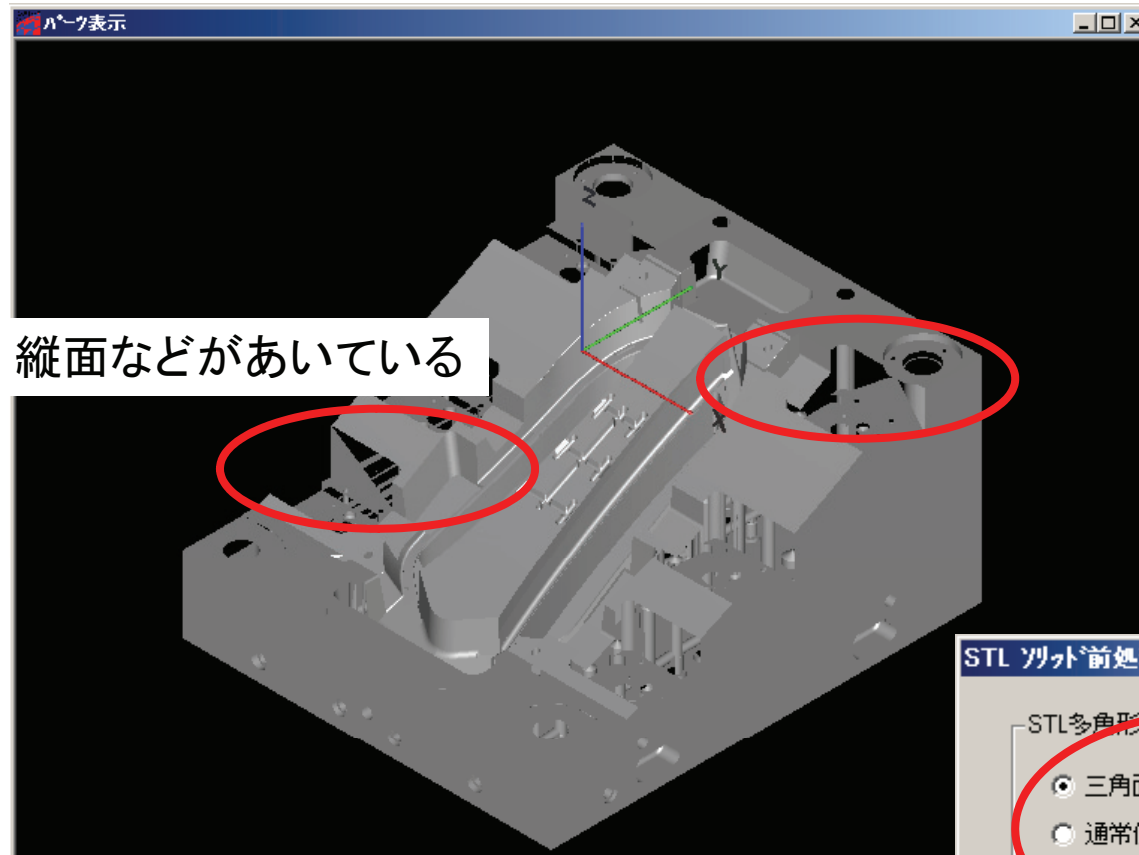
検査>>比較>>部品形状表示 を選択します

12. 画面でモデル形状を確認



正しく形状が読み込まれました。

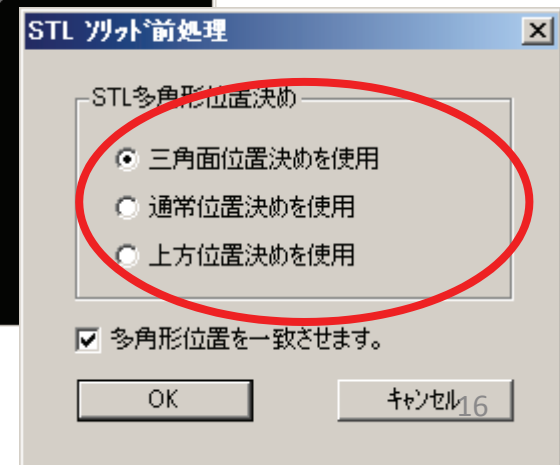
不正なモデル例



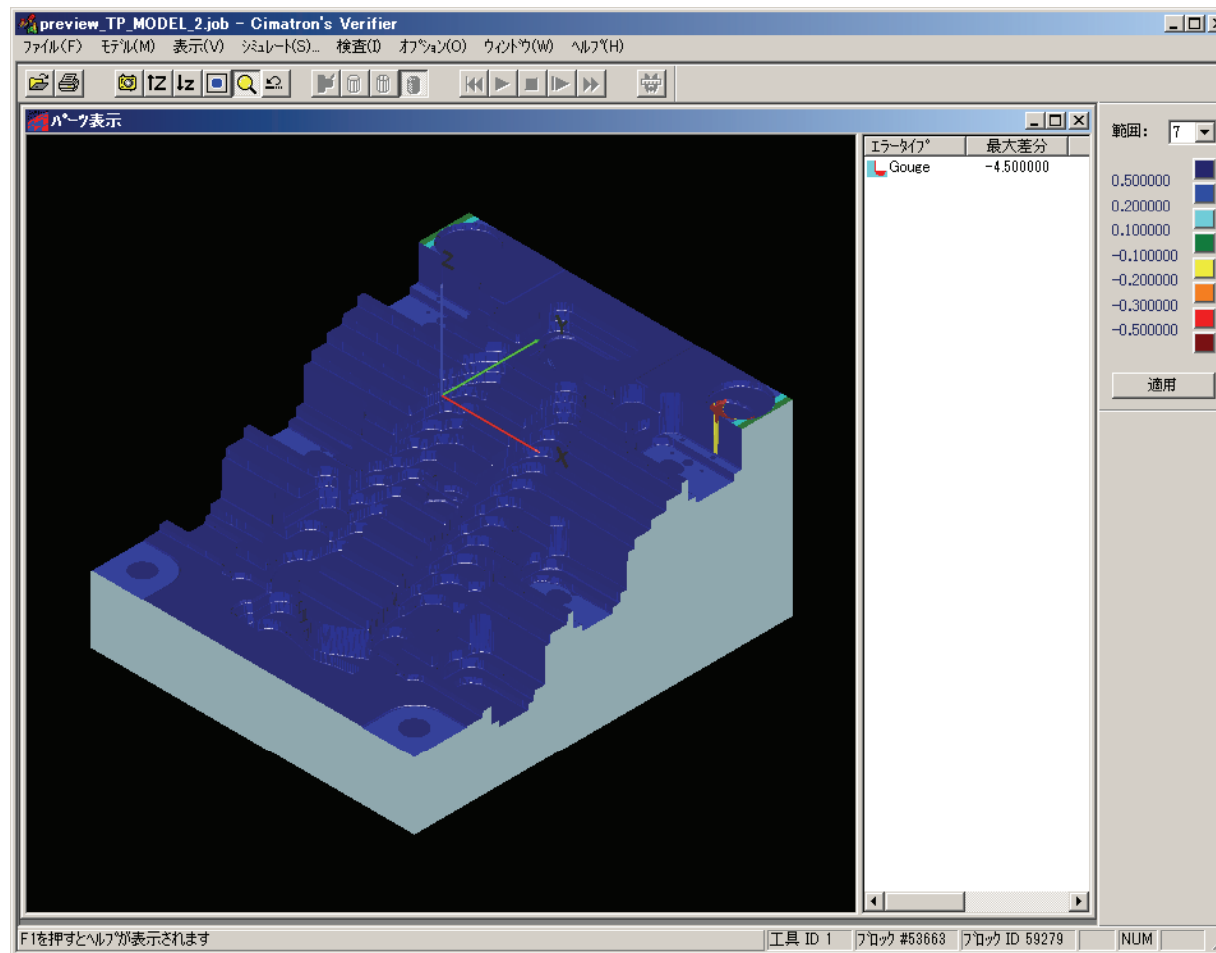
不正なモデル形状

この場合はSTLのパラメータで違うオプションを選択して
もう一度製品形状を読み込んで下さい。

Saeilo Japan, Inc.



13. エラーをチェックします



「相違表示」や「エラー検出」を使用して食い込みをチェックします。

14. 面の修正

- エラーの箇所の面を張り直す等で、パスを修正します。
- 面の修正は、「スケッチャで」や「フェア」を使用すると修正されることもあります。
- お手数をおかけしますがよろしくお願いします。